

第4分科会

合同部活動の現状と今後について

高野 俊弘 (滑川・バレーボール) 荒城 正人 (富山いずみ・ソフトボール)
川平 俊博 (富山商業・弓道) 林 英明 (富山西・フェンシング)
吉田 治夫 (高岡第一・ラグビー) 松倉 恒輔 (富山商業・バスケットボール)

1. はじめに

平成13年度の研究部会(第5分科会)の発表では、高校間の合同部活動を広く実施していくには、現状として難しいということを報告した。その最も大きな理由は、全国大会や北信越大会での合同チームの参加が原則認められていない以上、上位の大会に繋がる公式戦への合同チームの参加には整備しなければならない課題が多く、実現が難しいということであった。さらに、合同部活動を発展させていくことが困難である理由として、次のような問題点があげられた。

- ・高校間の合同部活動は部員不足の運動部活動にとっての一時的な救済措置であること、当該専門部の大会エントリーチーム数確保のための苦肉の策であり、今後飛躍的に広がっていくとは考えにくい。
- ・合同チームが大会参加してくる意義は、それぞれの専門部で大きく異なっている。
- ・大会参加だけを目的に合同チームを組むようなことがあつては、日々の部活動の活性化からかけ離れてしまう。

しかし、少子化により生徒数が減少し、生徒の部活動への関心が次第に薄れつつある現在、合同部活動の実施は低調になっている運動部活動を盛り上げ活性化させていく手段には本当になり得ないのだろうか。

このような中で、平成14年度より、富山県の高体連の各専門部に先駆けてついにラグビー専門部が合同チームの公式戦への参加を実施した。また、ソフトボール専門部でも合同チームの大会への参加が検討されている。本分科会では、これらの専門部の実践をもとにして、あらためて実施上の問題点を確認するとともに、高校間の合同部活動が「部活動の活性化」につながるであろうプラス面について研究することにした。

また、高校における部活動を活性化していくためには、当然ながら部員の確保が重大な問題である。そのためには高校と中学校との間の部活動の関係も考えてみる必要がある。

本分科会では、フェンシング専門部の取り組みである「文部科学省による運動部活動地域連携実践事業」を参考にしながら、中高間の部活動の在り方と可能性についてもさらに研究を進めていくことにした。

2. 高校間の合同部活動

①ラグビー専門部の取り組みについて

ラグビー競技は、正式には15名の選手が必要なため、学校によってはチーム編成ができず、大会への参加が困難になってきた。少人数(7人)制を導入したりもしてきたが、他の専門部に先駆けて県内大会の一部で複数校合同チーム編成による大会参加を認めている。そこで、これまでに合同チームで参加した選手・監督に対して実施したアンケート調査の結果から、合同チームによる大会参加について考察する。

<平成14年度での考察>

○生徒の意識について：良くなかったと答えた生徒の方が多かった

良かったと答えた生徒からは目立った問題点の指摘はなかったが、良くなかったと答えた生徒は、チームワーク、コミュニケーション、技術的な問題などを指摘している。しかし、これらの問題点は早い時期からの合同チームの決定と合同練習時間の確保によってかなり解決できると思われる。

そこで専門部では、平成14年度の秋季大会(新人戦)から平成15年度の春季大会まで同じ合同チームで活動することによってオフシーズンを除く約2ヶ月程の練習期間を確保できるようにした。

○顧問の意識について

合同チームであっても、まず15人制の大会に参加することによってラグビー本来の楽しさを知ってもらいたい、そしてラグビーへの興味・関心を高めることによって部員数の増加につなげ、最終的には単独チームへの復活を目指したいと考えている。

<平成15年度での考察>

○生徒の意識について：良かったと答えた生徒が大会が進むにつれてどんどん多くなった。

前年度に行った改善により、合同練習期間が長くとれるようになり、合同チームの活動がより円滑にできるようになった。また、生徒のラグビーに対する興味・関心も高まっている。まだまだ問題点はあるが、

粘り強く取り組んでいくことにより合同部活動の運営をより発展させていける可能性がある。

しかし、生徒の意識の根底には、単独15人制チームで参加したい気持ちが強いことを忘れてはならない。

○顧問の意識について

基本的には前年度と変わっていない。

また、顧問の思惑どおり部員数が増加して、今年度より単独チームで大会に出場できるチームが増えてきたことは、合同部活動を実施してきた成果であると思われる。

②ソフトボール専門部の取り組みについて

ソフトボール専門部では、上位に繋がる大会へは合同チームの参加を認めていないが、その他の大会では柔軟に対応している。平成15年度呉東地区春季大会において、試験的に合同チームの参加を認め、ラグビー専門部と同様、大会終了後にアンケートによる生徒と監督の意識調査を実施した。

秋には、参加チームの減少に伴い、従来は各地区で実施していた秋季の大会を全県規模の大会として実施することになり、この大会でも合同チームの参加を認めた。初日はリーグ戦、2日目はレベルに応じたチーム同士のトーナメント戦と変則リーグ戦になり、強化と普及・振興を考えた大会運営で実施された。

○生徒の意識について：良くなかったと答えたものはいなかった。

初めての試みであったが、大会に参加できたこと、他校の選手監督との交流などにメリットを見いだし、している。しかし、合同部活動の問題点としては、練習場所や練習時間の問題、合同練習期間の短さなどを指摘している。

○顧問の意識について

合同部活動のメリットを認める意見が多かったが、合同チームゆえに選手同士で遠慮してしまい伸び伸びと活動できない点や、指導者として他校の選手への配慮が働き、十分な指導ができなかい点を指摘する意見があった。

③まとめ

今後の課題として、以下の点があげられる。

ラグビー競技においては、今年度新人戦において単独チームを破るくらいに実力をつけた合同チームが出てきているので、今後シード権に合同チームが絡む場合の扱いについて、きちんと整備していく必要がある。

ソフトボール競技においては、現在上位に繋がらない大会に限って合同チームの参加を認めているが、全県規模の春季、高校総体、新人戦では認めていない。今後、数あわせの臨時的な合同チームでなく本来の合同部活動を目指すためにも、上位の大会に繋がる大会への出場は是非を考えていかなければならない。今現在合同チームが上位の大会へ出場できないことを考えると、合同チームが優勝した場合やシード権に絡む試合に勝利した場合の扱いをどうするかも同時に考えていく必要がある。

3. 中高間の合同部活動

①文部科学省による運動部活動地域連携実践事業とは

○趣 旨

生徒数の減少などによる学校の運動部活動への参加生徒数の減少、指導者の高齢化や実技指導力不足などの要因で、単独校によるチーム編成ができない、あるいは十分な指導ができないなど、競技種目によっては、その活動を継続することが困難な状況が生じてきている。

このため、生徒のスポーツに関する多用なニーズに応えるため、複数校合同による運動部活動や地域スポーツクラブ等との連携など、1校の枠を越え、地域のあらゆる資源を活用した地域社会との連携について、市町村(特別区を含む。以下同じ)単位で指定する運動部活動地域連携実践地域(以下、「実践地域」という。)に実践校を設け、実践的な取り組みを行う。

○実施期間・・・原則として、3年間とする。

②婦中町における取り組み

平成14年度は、フェンシング競技に主眼をおき、実践を進めた。速星中学校に新設されたフェンシング部を中心に、外部指導者の導入、高等学校との合同練習の両面から取り組んだ。

③14年度取り組みの成果

- ・中学生に対して高校生がストレッチの仕方、基礎体力づくりなど基礎的なことから丁寧に指導してくれたので基礎技術の向上が見られた。
- ・生徒の部活動に対する意欲が向上した。

- ・高校生の取り組みが技術面だけでなく、礼儀やマナーにおいても中学生のよい手本となり、中学生の精神的な面においても向上することができた。
- ・外部指導者の活用を行ったことで、練習のバリエーションが増え、生徒も内容の濃い練習ができた。

④ 14年度取り組みにおけるおける考察

今年度は、フェンシング競技における速星中学校と富山西高校の合同練習を開催し連携を図った。多くの成果が上げられるが、特に高校生が中学生の良き手本となり、中学生の技術面・精神面の向上や競技に対する取り組み方がよくなったということが挙げられる。また、高校生においても練習を行って行く中で、普段と違った新鮮な気持ちで練習に取り組み、技術面だけでなく様々な面で中学生の模範となるような行動をとっていた。さらに、中学生への技術面での積極的なアドバイスが高校生自身の基礎・基本の確認の場となり、お互いが良い刺激を受けながら行うことができたのではないかと考えられる。

しかし、中学校と高校という異校種の活動のため、教育課程の相違や学校行事、大会日程等により練習日程の調整が十分に行えず合同練習が充分できないのが現状であった。

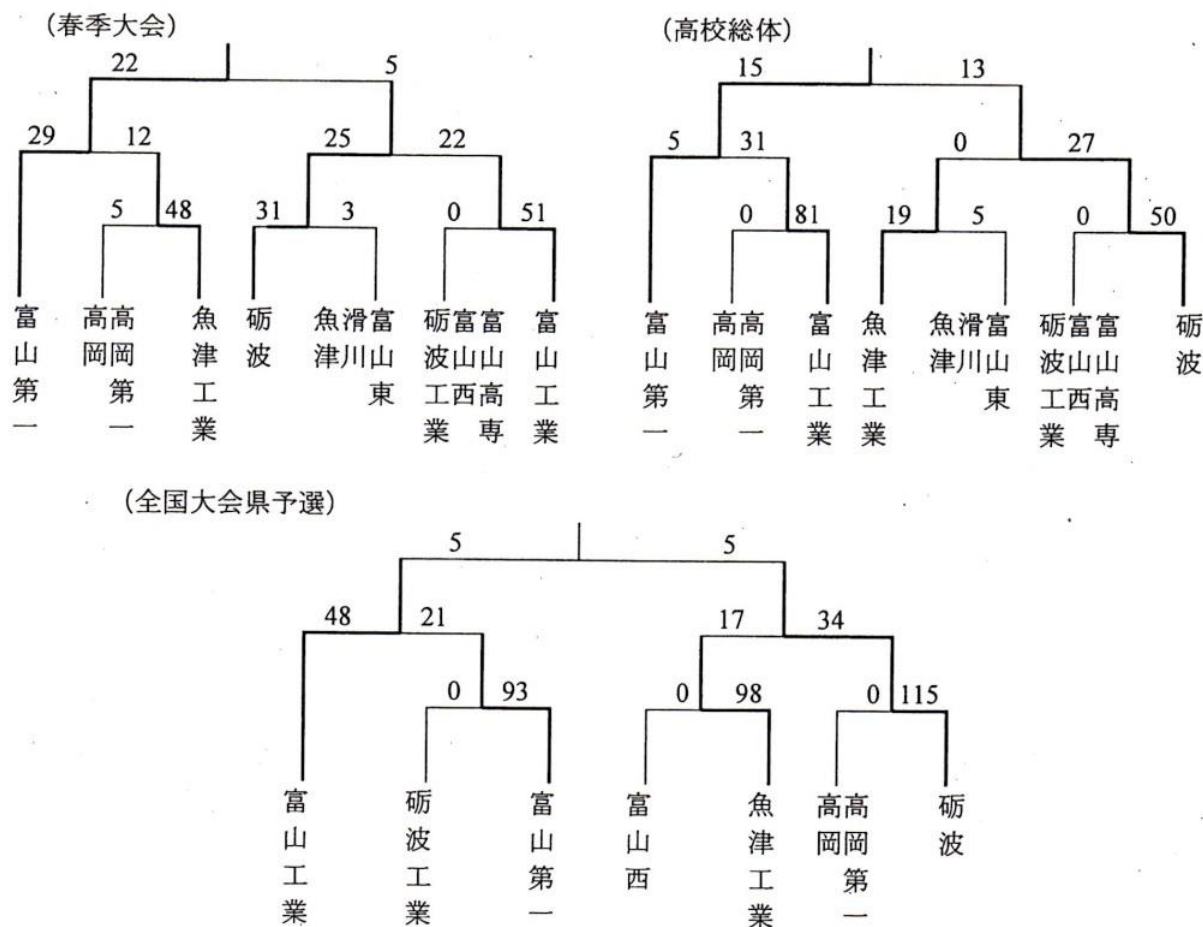
今後はお互いの指導者が連携を密にし、計画を立てて連携活動を推進できる環境を整備していく必要がある。

⑤ 14年度取り組みの課題

- ・事業を効果的に推進するための運営組織の整備
- ・学校における年間行事等を把握し、計画的な練習日程の設定
- ・優秀な外部指導者の派遣と連携方法
- ・平日における合同練習会の開催方法

なお、本事業は現在も継続中である。

資料1 平成15年度合同部活動ラグビー専門部の取り組み



資料2 ラグビー競技アンケート結果より

春季大会・高校総体を通して

1. 生徒用 (合同チームで参加した生徒による) 7校45人回答

①合同チームで試合に出たの感想を聞かせてください。

ア、良かった イ、良くなかった ウ、わからない

23人 11人 11人

(12人) (20人) (19人) 前年度 51人回答

②①で、良かったと考えた人に質問します。どんなところが良かったですか。

- ・15人制の試合を経験できた。
- ・他校生と交流ができた。
- ・いろいろなチームが集まって試合ができたところ。
- ・普段の試合と異なり、新鮮な感覚で試合に臨めて楽しかった。
- ・他校と仲良くなれる。
- ・人数が増えるので、練習メニューが増える。
- ・お互いにレベルアップできた。
- ・やっぱりラグビーの楽しさを味わうには、15人制でしょう。
- ・出来れば自分のチームで出場したかったが、合同チームで出ること、それぞれの長所を出し、短所を補うことができ、友情も芽生えたので、結果的に良かった。
- ・合同練習で他校の先生やコーチから学べることも多いから。
- ・他校のうまい人たちに教えてもらって見本になったから。

③①で良くなかったと答えた人に質問します。どんなところが良くなかったでしょうか。

- ・多数部員のいる学校が中心になる。
- ・試合に出る機会が少ない。
- ・毎日一緒に練習できないところ。
- ・良かった点も多いけど、やっぱり合同だと言いたいこともあんまり言えないし、一人ひとりのことが良くわからんからどうしても団結力に欠ける。
- ・合同する他チームと話したり、コミュニケーションをとる時間がない。

④今後合同チームを組むとしたら、何か希望すること、改善して欲しいことはありますか。

- ・他校の指導者のあり方。
- ・他校の生徒に対する仲間意識の低さ。
- ・遠慮しなくていい環境作り。
- ・合宿を1日か2日程度やって、チームに結束力を持たせればよりよいチームになると思う。
- ・合同合宿がしたい。
- ・毎日でも練習したい。
- ・単独校と試合しても、結果はほぼわかりきっているの、できるだけ多く試合をするためにも、合同チーム同士で試合をさせて欲しい。

⑤合同チームで15人制の試合に出ると、単独校で7人制の試合をするのとでは、どちらがいいと思いますか。

ア、合同チームの15人制 イ、単独校の7人制 (不明)

27人 14人 5人

(13人) (36人) (2人) 前年度分

2. 先生用 (合同チームで参加の先生)

①合同チームで試合に出たの感想を聞かせてください。

ア、良かった イ、良くなかった ウ、わからない

5人 0人 0人

(3人) (0人) (1人) 前年度 4人回答

②①で、良かったと考えた人に質問します。どんなところが良かったですか。

- ・15人制のプレーへの理解に役だった。

- ・コンビネーション等うまくいかない部分は多かったが、15人制の試合が経験できたこと、またその中で、自分に今何が不足しているのかを生徒一人一人が考えられたこと。
 - ・指導していく上で、何が必要かを考えられたこと。
 - ・一時的に選手の数が少なくなったが、その期間も15人制の試合をすることができ、この後の試合に向けて練習できた。
 - ・複数の指導者によるきめ細かい指導。
- ③①で良くなかったと答えた人に質問します。どんなところが良くなかったでしょうか。
- ④今後合同チームを組むとしたら、何か希望すること、改善して欲しいことはありますか。
- ・学校運営上の違い（7限授業や模試、土曜補習などの有無）で、練習機会の場が失われやすい。
 - ・今回のように、春季と総体を合同チームで行うのが望ましい。
 - ・合同チーム同士の試合が増えると面白いと思う。
 - ・1回戦から芝生のグラウンドが使用できればいいと思う。
 - ・練習場所と時間の確保。
 - ・職場の理解があれば、とも思います。
- ⑤合同チームで15人制の試合に出るのと、単独校で7人制の試合をするのとでは、どちらがいいと思いますか。
- | | | |
|--------------|-----------|------|
| ア、合同チームの15人制 | イ、単独校の7人制 | |
| 5人 | 0人 | |
| (3人) | (1人) | 前年度分 |
- ⑥合同チームの大会参加の良い点をお書きください。
- ・他校の生徒と共通の目標を持って取り組むこと。
 - ・本来ラグビーは、15人で行う競技であることがわかってもらえること。
 - ・他校生との交流が持てること。
 - ・コミュニケーション能力が高まること。
- ⑦合同チームの大会参加の悪い点をお書きください。
- ・多数の部員のいる学校が優先される傾向にある。
 - ・少数部員の学校の遠慮や、試合に出場できないことによるモチベーションの低下。
 - ・良いチーム（強いチーム）にするには合同練習の回数を多くしたいが、日程や場所の問題がある。

全国大会予選

1. 生徒用（合同チームで参加した生徒による） 2校24人回答

- ①合同チームで試合に出た感想を聞かせてください。
- | | | |
|--------|----------|---------|
| ア、良かった | イ、良くなかった | ウ、わからない |
| 22人 | 1人 | 1人 |
- ②①で、良かったと考えた人に質問します。どんなところが良かったですか。
- ・実戦に近い練習ができた。
 - ・違う学校の人と仲良くなれて、いろんなラグビーを知ることができた。
 - ・人数が多いことで多彩な練習ができる。
 - ・よい意味で刺激となり、練習が引き締まる。
 - ・一体感があって楽しかったし、お互いに強くなった気がした。
 - ・うまいプレーを見て刺激しあえる。
 - ・プレーを教えてもらうことができた。
 - ・徐々にチームワークが良くなっていき、違和感もなくラグビーができること。
 - ・人数に余裕がある。
 - ・自分の高校にないものを相手校は持っているから。
 - ・先生の指導が本当によかった。
- ③①で良くなかったと答えた人に質問します。どんなところが良くなかったでしょうか。
- ・つまらない。
 - ・移動がだやい。
- ④今後合同チームを組むとしたら、何か希望すること、改善して欲しいことはありますか。
- ・練習時間を長くする。

- ・練習場所を交互にしてほしい。
 - ・勝ちたい。
 - ・合同チームのユニフォームが欲しい。
- ⑤合同チームで15人制の試合に出るのと、単独校で7人制の試合をするのとでは、どちらがいいと思いますか。

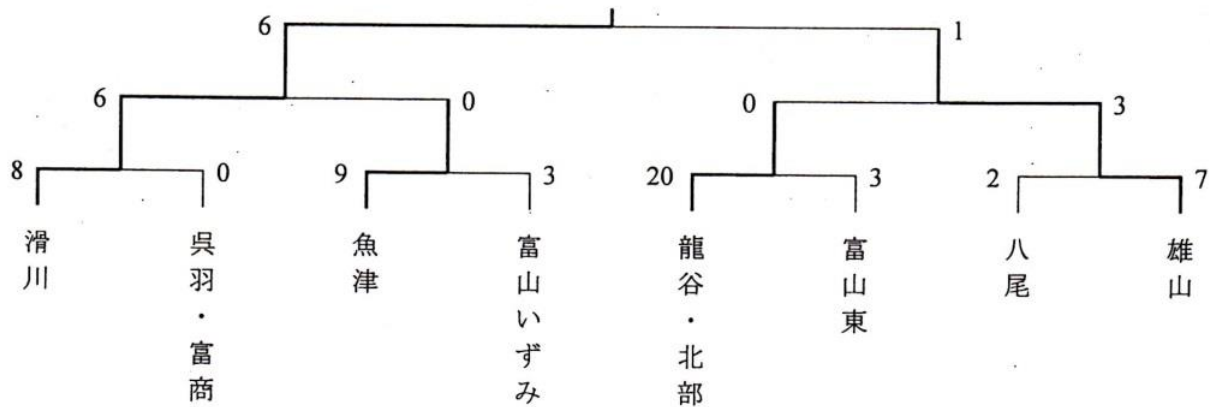
ア、合同チームの15人制 17人 イ、単独校の7人制 1人

※単独校の15人制で出たいという意見 6人

富山西高校が3年ぶり単独チームで出場した。

新人戦からは高岡高校、高岡第一高校も単独チームで出場予定である。

資料3 平成15年度 呉東地区春季大会結果



資料4 平成15年度 秋季大会結果

リーグ戦結果

Aリーグ

	雄山	八尾	高岡南
雄山	/	○ 25-1	○ 11-1
八尾	× 1-25	/	× 4-11
高岡南	× 1-11	○ 11-4	/

Bリーグ

	大門	魚津	中・商	新・光
大門	/	△ 10-10	○ 23-3	/
魚津	△ 10-10	/	/	○ 9-2
中部・商業	× 3-23	/	/	× 2-9
新湊・福光	/	× 2-9	○ 9-2	/

Cリーグ

	富山東	南・いずみ	龍谷富	福野
富山東	/	× 3-4	○ 13-2	/
南・いずみ	○ 4-3	/	/	× 7-10
龍谷富山	× 2-9	/	/	× 4-9
福野	/	○ 10-7	○ 9-4	/

Dリーグ

	高岡西	呉羽	井波	桜井
高岡西	/	× 8-13	× 0-18	/
呉羽	○ 13-8	/	/	× 5-14
井波	○ 18-0	/	/	○ 14-1
桜井	/	○ 14-5	× 1-14	/

ソフトボール競技アンケート結果より

1. 生徒用 (合同チームで参加した生徒による) 2校24人回答

①合同チームで試合に出るの感想を聞かせてください。

ア、良かった 10人 イ、良くなかった 0人 ウ、わからない 0人

②①で、良かったと考えた人に質問します。どんなところが良かったですか。

- ・良い面も悪い面も見ることができたし、協力して行えたから。
- ・交流が深められたので良かったし、協力し合えた。

